

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175300250		
法人名	有限会社ケアサポートますむら		
事業所名	グループホーム ファミールみどり		
所在地	網走市緑町1番10-6号		
自己評価作成日	平成26年9月23日	評価結果市町村受理日	平成27年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ホーム周辺には緑や海が多く四季の移り変わりを楽しむ散歩やドライブ。町内会及び地域のボランティアの方の絵本、紙芝居の読み聞かせ、絵手紙や手軽な運動、小学生、高校生の方との交流、遊びを使ったレクリエーション。家族の方、近所の方、以前スタッフとしていた方が来訪し気軽におそそ分けをされたり、したりする笑顔のある良好な関係を築き、入居者様、スタッフ共に心豊かに過ごしています。
 ・入居者様同士がお互いを気遣う温かい場面もあり、個々のペースを大切にしながら、好きなことができる環境づくり、機能保持を含めた体操や行事を行い、事務長、管理者、スタッフが一丸となってその人らしい介護支援ができるよう連携しています。
 ・長い年月入居されている方がおり、認知症の進行に伴ったスタッフ研修を行い、スキルの向上に努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0175300250-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成26年11月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)ホームの設備・機能
 共用空間は居間を中心とした多様な調度備品、トイレ・浴室等の利便性の高い配置がされている。四季の飾りつけや多温・湿度の管理で、居心地よい和みある場となっている。
 2)職員の介護姿勢
 職員は穏やかで、個々への丁寧で真摯な対応が見られ、利用者の安心感に繋がっている。
 3)利用者家族の満足度
 家族アンケート結果とアウトカム項目との整合性が高く、利用者家族から高い満足度を得ている。
 4)運営推進会議
 会議は定例に開催し、事故報告・ヒヤリハットや運営状況を開示して、参加者からの意見聴取に努め、運営に反映している。
 5)地域との連携
 ボランティアの積極的な受け入れを行っている。開設当初から地域の理解と参加を得てホームの設立し、以来、確かな信頼関係形成に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は毎月のケア・カンファレンスにて、職員交替で毎月復唱、再認識しています。理念に基づいて支援するよう心掛けています。	「ゆっくりと・一緒に・楽しく・その人らしく・豊かに」を運営理念とし、事業所に掲示している。定期的に再確認し、理念を踏まえたケアが実践できるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	気軽に町内会ボランティア、近隣の住民の方が来訪し、絵本の読み聞かせや野菜を頂いたり、雪かきのお手伝いをして頂いたりして笑顔のある交流があります。	利用者の入居前の生活が継続できるよう、地域との交流を含めて検討している。町内会行事への参加やボランティアの受け入れなどを積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スタッフが市のボランティア活動、認知症サポーター養成の講師としての参加しています。運営推進会議など意見交換の機会を作り支援の理解に繋がっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在の利用者様の状況を会議、広報に於いて行っている。また、事故報告やヒヤリハットを議題にあげて質の向上を図っています。	包括支援センター・家族代表・地域住民代表等が参加し、年6回開催している。会議では、運営状況、事故・ヒヤリハットなどの問題を明らかにし、積極的に委員からの意見を取り入れることで、サービスの質の向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症介護研究会を組織として活動している。市より情報を頂いたり、月一回程度、市内グループホームの職員と交流を持っています。	地域包括支援センターによるSOSネットに参加・協力している。グループホーム管理者会議や市への毎月の状況報告、推進会議報告の場を通じて、地域高齢者や事業所の状況について情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	殆どのスタッフが身体拘束の研修を重複して参加している。日頃の話し合いで常にとどのような事が拘束になるのか、お互いに確認をしています。	身体拘束等に関する外部研修には積極的に参加し、受講後の伝達研修で職員全員が共有するようにしている。玄関は日中の施錠は行わず、利用者の外出の希望があった場合には、職員と一緒に出掛けるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者より、個別に職員の意見を聞き、精神的ストレスがないか聞き取りを行っている。スタッフは研修に参加し防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は一通り権利擁護の勉強をしている。現状は活用実績がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族様と入居前に面談をし、管理者から契約の説明を行っている。料金の一部改訂に伴い全家族への契約の締結をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時、家族様とメールでやり取りをし状況を伝えている。運営推進会議の開催、遠方の家族様には担当者会議をもち、意見、要望を出せる機会を作っている。	生活状況・家族報告を毎月行う等、利用者・家族と職員のコミュニケーションは良好である。利用者本位を運営の柱の一つとしており、日常的に意見・要望をくみ上げる仕組みがある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者の入退院、経営状況、定期的に行われるミーティングに於いてホームの現状などを報告しています。	定例のミーティング等、職員の意見を聴取する機会を設けている。また、個別でも随時、要望等を聞き、運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境について、管理者が要望を出せる機会を作っている。改善に向けて、都度、話し合いを行っている。経営状況に関わらず職員の賞与や昇給を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に応じた役割分担、研修に参加しています。ほぼ全職員が認知症実践者研修を受講しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	道東地区のグループホーム役員をしており、今年4月から他職員の意見交換の再開をし多くの交流を持つようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人様と面談を行い、どのような方が、前施設や家族様から情報を頂いて共有しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方にセンター方式の記入、本人様を含めた担当者会議を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	無理のないケアプランの作成とセンター方式のシートを活用しながら本人様に添う対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	希望に沿った関係づくりに努めている。スタッフ間で共有、確認して行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の思い、要望を家族の方に伝え確認しながら関係を築いて行っている。ホームページでホームの近状を知らせています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の友人が面会に来られたり、手紙を通じて、以前居住されている方の関係の継続を心がけている。	日々の関わりの中や家族からの情報をもとに、生活習慣や馴染みの場所等を把握し、一人ひとりの想いに添える様、支援に努めている。定期的な家族、知人等の訪問がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事及び日常的に、利用者様同士が集まり顔を合わす機会を設けています。利用者同士が部屋を行き来し、お話を楽しまれている場面があります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の利用者様とは、病院や施設に訪問したり、家族様と会った時は話をしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人一人が入居者に寄り添う姿勢で希望を把握するようにアセスメントの共有やケア会議により、検討しています。	利用者との職員の関わりは、個々の目線に合わせて自然で、ケア記録を職員間で共有し、本人本位の生活が送れるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話や家族様から、センター方式を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの利用者の状態を見極めながら、現状を把握し、ケアの統一を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当の入居者様がいて、モニタリングを行い問題点を上げてもらい、ケア・カンファレンスで検討し、現在必要なケアプランの作成をしている。	担当者がモニタリングを実施し、目標の達成状況・問題点等について、ケアカンファレンスで検討している。3か月に1度、見直しを行い、健康や身体状況に合わせて計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録簿、連絡簿があり、引き継ぎ、ケア会議などで活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、ボランティアの受け入れを行い、他者との関わりを持つように努力しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域より、多くの協力をして頂いており、利用者様の生活に大きな楽しみとなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近郊に協力病院があり、定期健診、予防接種、訪問歯科を継続している。状況の変化に応じ、都度相談に応じてくれます。	近隣の協力病院と連携して、本人・家族の意向に沿い、受診出来るよう支援している。また、定期訪問している看護師の意向を医師への経過報告へ活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携があり、月に1回の定期訪問があり、緊急時でも対応できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、管理者、職員が交代で訪問をし、情報を得て関係作りに努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の方針について、家族との話し合いの場を設け方針を聞き、特養など入居申請を行っている。	重度化した場合の対応に係る指針を文書化し、早期から家族や、かかりつけ医と連携し、話し合いを行っている。本人や家族の希望を尊重し、最善を尽くせるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命や、消防の研修に参加をし、知識、実技の技術を学ぶ機会を設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で警察指導の下、ハザードマップを活用し、図上訓練を行ったり、自衛消防訓練を行っている。	避難訓練は消防署の協力のもと、火災想定で年2回実施。緊急時の避難方法・経路の確認、協力体制作りに努めている。また、その他の天災対策についても、市のハザードマップの活用等、準備がしっかりと進められている。	災害時の具体的な支援方法について、事業所内で十分に検討されている。地域協力体制の基盤をもとに、今後も継続を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別のプライドや理解力に合わせた、優しく丁寧な言葉かけをするよう心掛けています。	利用者のできること・できないことをアセスメントし、失敗しないようさりげない支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの利用者には、なるべく自己決定して頂くような支援は行われている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースではなく職員ペースでの介護をしている場面もあり、改善の必要があると思われる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や行事により、それぞれの好みで服を着たり、化粧をされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい食事の希望を聞いたり、盛り付けなどのお手伝いをして頂き、後片付けを手伝われたりしている。	調理から後片付けまで、個々の利用者の出来る範囲で手伝ってもらい、日課としている。嗜好等の要望を取り入れたり、外食に出かける等、楽しみとなる食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	センター方式を活用し、水分量を管理したり、食事の様子など特変があれば記録に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	管理が必要な方には介助を行い、口腔内の確認を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくオムツを使用しない介護を行っており、出来る事をして頂く支援を行っている。	基本的にオムツを使わないよう取り組んでおり、職員が利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、小さなサインを見逃さないようにして、適切にトイレに誘導するよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認をし下剤の調整、食事、水分摂取時に乳製品を使用し、下剤に頼らない排泄が出来るように工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は曜日が決まっており、好きな時間に入浴は出来ないが、個別対応ができ、利用者、職員間でコミュニケーションを計れる場となっている。	週2、3回を目標に、一人ひとりの希望や生活習慣に応じ、入浴がゆっくりと楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	2/3の利用者の方はそれぞれの時間で休息を取ったり、自室で過ごされたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の服薬している薬の把握をし、副作用や症状の理解の把握をしている。また、変更時、連絡ノート、送りで伝え、ケア会議に於いて議題に上げています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の手伝い、片付け、掃除や洗濯物の整理など日課としてしてもらっています。趣味がある方は、自室で絵手紙を書いたり、テレビを見られたり過ごされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩など全員による外出は難しくなっている。個別の対応で家族の方にお願ひし、外出が出来るようにしています。	事業所周辺は豊かな自然があり、散歩やドライブを楽しむことができる。年齢と共に、全員での外出が現状で困難となっているが、家族の協力を得て、本人の希望に沿えるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方は自分で持っており、買い物を頼まれることがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や家族に手紙を書き職員に頼まれ出したり、一緒に出しに行くことがある。電話が来たら、話をしたりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間では季節の飾り物を飾ったり、お花などを飾ったりしている。全室が日中採光できるような配置で、窓の開閉が自由にでき、加湿器や空調気を複数台用意し、状況によって換気したり室温の管理を行っている。	共用空間は居間を中心とした多様な調度備品、トイレ・浴室等の配置で、介護上の利便性を高めている。また、室温・湿度等の管理のもとに居心地よい環境にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士、話をしたり、職員がお話をしたり一人にならない空間作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた馴染みの物を持って来て頂いたり、就寝時に床に布団を敷く方、ポータブルトイレを使用する方もいます。	居室は、使い慣れた馴染みのものを自由に持ち込むことで、環境変化によるストレスが軽減出来るよう配慮されている。また、温・湿度の管理がなされ、居心地よい空間作りの為の工夫に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在持つる力を把握した役割分担、物の分類が分かるラベルを貼り、本人様に解るように工夫しています。		